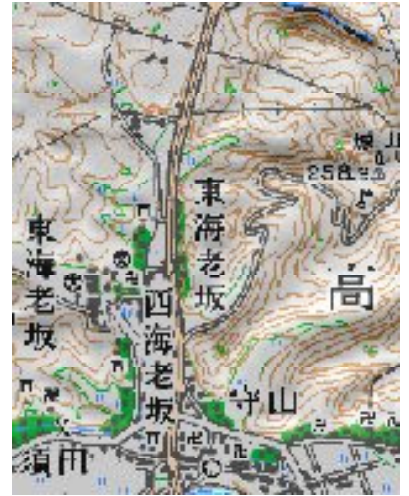


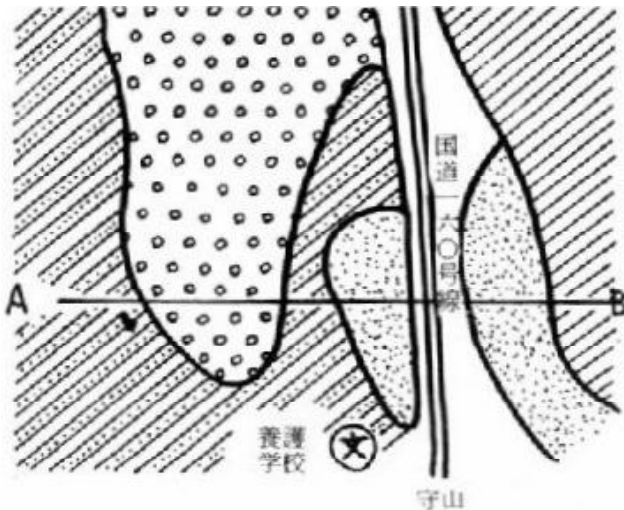
二上山・海老坂

海老坂断層

国道160号線を氷見方向に進んでいくと、東海老坂にさしかかります。山の間を縫うように進んで行く国道とほぼ平行に、「海老坂断層」があります。この断層は、高岡市の守山から雨晴まで3km以上続く活断層です。二上山が隆起した際に西側の地層もいっしょに引きずられるように盛り上がり、新生代第4紀になってから途中で切れてしまったためできたものではないかと考えられます。このため、海老坂断層の西側にはわりと新しい地層、東側にはわりと古い地層が見られます。



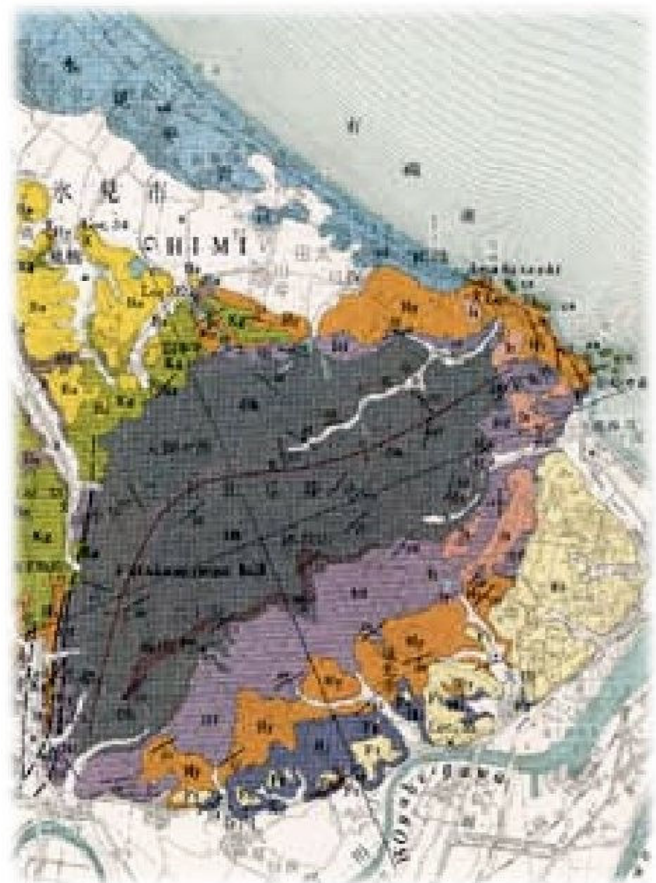
以前は、国道160号線の東西に見られる露頭の傾斜を比べると明らかに異なっていたので、断層の存在も分かりやすかったのですが、現在では露頭はコンクリートで被覆されてしまい見ることはできません。国道160号線は、断層によってできた自然の谷を利用して作られています。



海老坂断層の概念図



上図のA-Bの断面図
(カシ米尔3Dで作成)



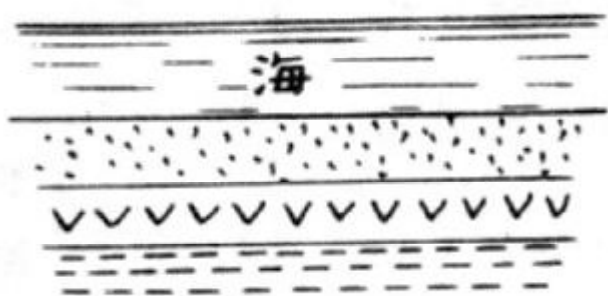
二上地区の表層地質図

産業技術研究所地質調査所地質図
50000分の1 富山(1963)の図幅より抜粋

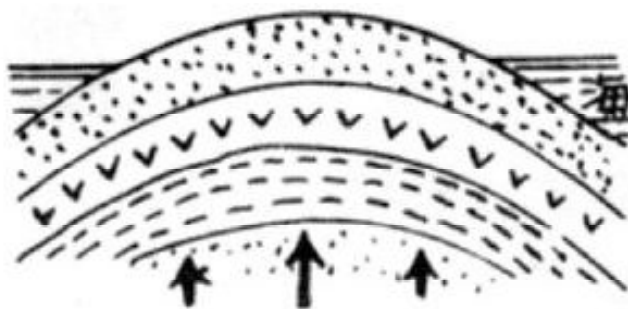
隆起する大地 ー二上山ー

今から1000万年ほど前までは、二上山周辺は一面の海でした。その後、城山・二上山・鉢伏山の東を中心に隆起が始まりました。産出する化石などから判断すると、隆起以前のこの辺りは水深700~800m程度の深い海だったのですが、今から100万年ほど前までに標高300m程度まで隆起しました。1000m程度隆起したことになります。

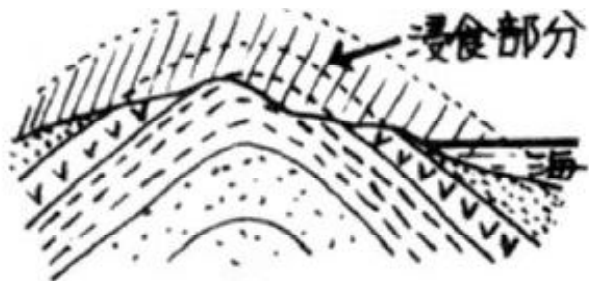
その後、隆起した部分は浸食を受け、下の方にあった古い時代の地層が現れました。また、新生代第四紀には氷河期による海水面の上下を繰り返したことにより、二上山の東側の伏木地区に扇状地が形成されました。これらの段丘をつくったのは、庄川や小矢部川が運んできたものです。



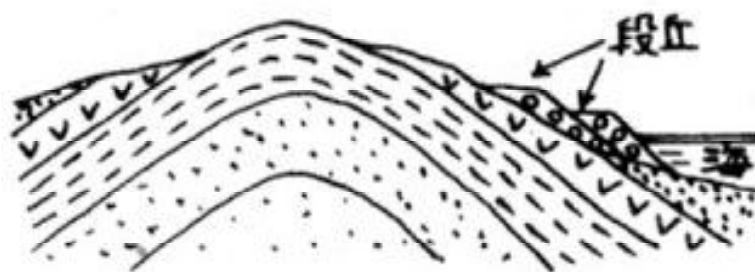
1 海底に堆積する



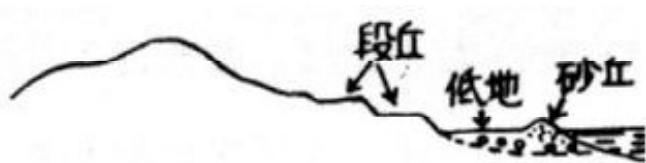
2 隆起して陸地になる



3 浸食されて古い地層が出てくる



4 段丘堆積物ができる



5 海岸に砂丘ができる